

島根県公共事業再評価 評価結果（案）

作成日 平成25年 5月

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響	今後の県の方針案
	(事業概要) (事業主体の根拠)	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	(事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の熟度)	(費用対効果) (コスト削減・代替案等) (その他の効果)	(生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	(継続・中止)
12	<p>(事業名・地区) 今市川広域河川改修事業</p> <p>(事業位置) 益田市 中吉田町～乙吉町</p> <p>(事業費) 3,350,600千円</p> <p>(事業概要) 全体延長L=1,042m 改修済L= 815m 改修中L= 227m 築堤、掘削、護岸、橋梁、床止、樋門、堰</p> <p>(事業主体の根拠) 河川法第9条2項</p> <p>(再評価区分) ④再評価実施後5年を経過し継続中</p> <p>(担当部課名) 土木部河川課</p>	<p>(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度：元年度 用地着手年度：元年度 工事着手年度：元年度 完了予定年度：27年度 経過年数： 25年</p> <p>(進捗状況と今後の見込み) 進捗率： 90% 用地： 99% 工事： 80%</p> <p>平成27年度完了予定</p>	<p>(事業導入の経緯・目的) 今市川は益田市中心部を流れ、益田川右岸下流で合流する。改修地点は昭和58、60、61年の大災害にみまわれ多くの住民の生命、財産が脅かされている。上流の準用河川改修と合わせて早急な河川改修が必要となった。</p> <p>(事業を取り巻く社会情勢) 過去に幾度の浸水被害を経験している周辺住民は河川改修事業の早期完成を熱望している。また、下流域においては益田道路が供用し区画整理が事業中であり、急速に進む市街化区域の拡大に対応する治水対策が急務となっている。</p> <p>(事業に対する地元情勢・計画の熟度) 地域住民が期成同盟会を設立し要望活動や情報交換を行うなど積極的な協力体制を作っている。</p>	<p>(費用対効果) b/c= 2.20</p> <p>(コスト削減・代替案等) 国道橋梁架替えにおいて桁厚を最小限にすることで周辺部への影響及び補償物件を低減し、コスト削減に努めている。</p> <p>(その他の効果) 下流の氾濫域は益田道路や区画整理事業により開発が進められており、この氾濫域が浸水しない良質な空間になることは地域経済の活性化につながる。</p>	<p>(生活環境・自然環境への影響) 護岸を緩斜面の土羽と水際に杭柵を用いた多自然型川づくりで自然に優しい空間を形成している。水中には鯉や亀、陸域にはトンボやバッタなどの昆虫、小魚や昆虫を餌にする鳥類も見られ多くの動物が憩う空間となっている。上流部においては、市指定史跡である中世今市船着場を残した河川法線にすることで地域文化にも配慮している。</p> <p>(事業を中止した場合の影響) 準用河川改修は県施工の取付を残すのみで、流域での事業効果が発揮できない。 延長がに残り僅かとなった今、事業を中断することは積極的に活動をしてきた地域住民の不満を大きくさせることになる。 中吉田平田地区土地区画整理事業により、背後地開発が進み洪水氾濫による被害（便益）がより増大する。</p> <p>浸水被害履歴 S58,S60,S61</p>	<p>(方針案) 継続</p> <p>(継続・中止の理由) 益田市の中心市街地を流れる河川として背後地資産が大きく、上流の準用河川区間の整備計画も着手待ちの状態である。 また、周辺地域が新たに開発され都市化が進んでいることから、計画規模による河川改修を早急に完了する必要がある。</p>

今市川 広域河川改修事業

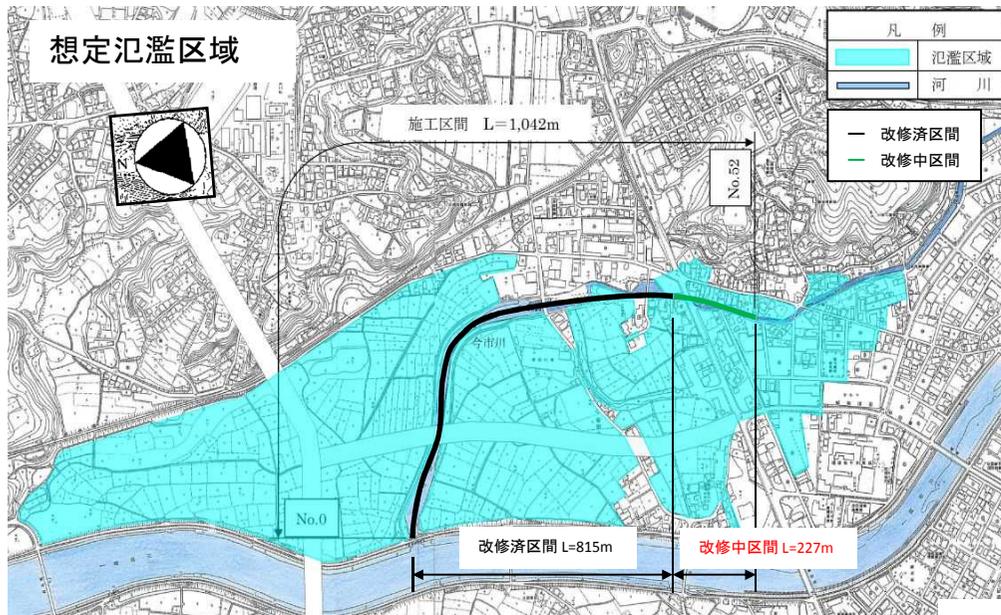
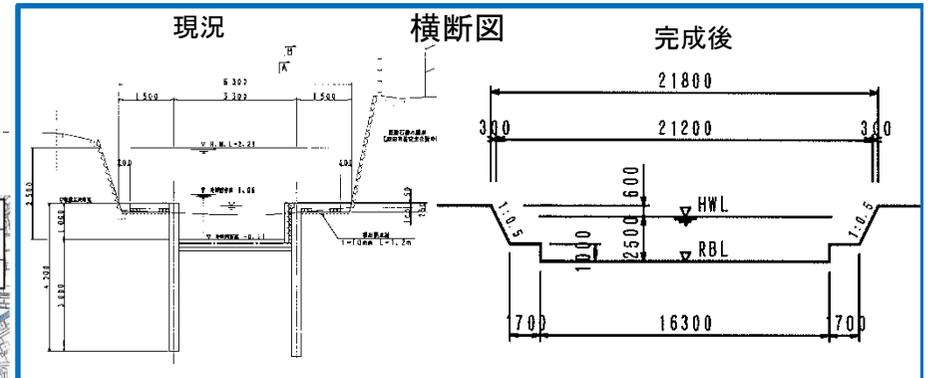
河川概要

今市川は益田市中心部を流れ、益田川右岸下流で合流する。計画区域は住宅、商店、工場等が建ち並ぶ益田市街の重要な地区であり、昭和58、60、61年の大災害にみまわれた。

下流域は益田道路が供用し区画整理が事業中であり、急速に進む市街化区域の拡大に対応する治水対策が急務となっている。

事業概要

- ・流下能力の向上を目的とし、築堤、護岸工により川幅を拡げ、浸水被害を防ぎます。
- ・益田川からの外水氾濫を回避するため、水門を設置して浸水被害を防ぎます。
- ・上流部は市指定史跡である中世今市船着場を残した河川法線にすることで地域文化に配慮する。



浸水状況



完成状況